

2011.07.10

ボランティアステーションの活動記録 No.3

【トピック 1】 6月15日・7月2日

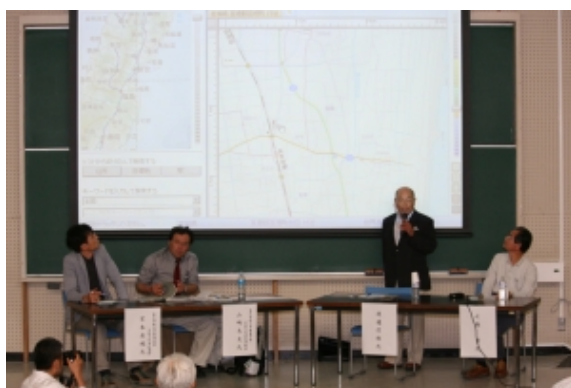
教育的プログラム「サバイバーズ」を開催

「日々復旧が進む毎日の中で、震災の記憶を風化させてはならない。今なお復旧に取り組む人々のそばに寄り添うことが大切」と企画された今回のシリーズ。震災により過酷な経験をするのを余儀なくされた一般市民の方や学生、さらに被災地域において復旧・復興に尽力されてきた方をお招きし、震災時の経験やその後の生活、加えて、地域の状況や必要な支援などについてうかがうという教育プログラムが始動した。

6月15日（水）、本学ボランティアステーション主催の「サバイバーズ」第1回を開催。被災された亘理町在住の七海勇氏、渡邊信秋氏、2名をゲストに迎え、震災時のリアルな体験談と、これからのまちづくりについてお話いただき、聴講した約150人の学生らは息を吞んで聞き入っていた。

第2回は、7月2日（土）泉キャンパス2号館で開催。スピーカーには石巻で被災された牧野照夫さん（石巻市雄勝町地区会長）と牧野輝義さん（市北上総合支所職員）を迎えた。

震災は私たちに自然が剥き出しの力を示したとき人の命があまりにも脆いことを教えた。この命の脆さに目を凝らすことを通して、震災にどう向き合うのかを、いま一度、考える機会になったと好評だった。



6月15日に開催された第1回 サバイバーズ

【トピック 2】 6月27日

ジョン・V・ルース駐日米国大使来訪 学生たちとラウンドテーブル

この度、在札幌米国総領事館から、佐々木郁子国際交流部長を通じ、ジョン・V・ルース駐日米国大使が東北学院大学を訪問、理事長・学長との懇談と、学生たちとラウンドテーブルを開催した。このラウンドテーブルは、東北最大の私学・総合大学である東北学院大学の学生たちと開催したい…という大使の希望により実現したもの。

6月27日のラウンドテーブルの参加学生は、英文学科の留学体験者やこの度の大震災後、災害ボランティアステーションで活躍している学生などが参加。冒頭、災害ボランティアステーションのスタッフが英訳に参加した河北新報社の写真集「巨大津波が襲った3.11大震災」（英語版）が代表から大使にプレゼントされ、その後、学生からは、日米の経済成長に関してや、震災中に体験した話など、活発なディスカッションがなされるなど、予定を30分維持用も超過する熱のこもった内容となった。



ラウンドテーブルの様子



ルース大使を囲んで

「夏ボラ」のお知らせ

東北学院大学災害ボランティアステーションを中心とした全国 12 の大学間連携による「夏ボラ」がスタートします。詳しくは、ホームページで。

○夏ボラ

http://step-tg.jp/volunteer/?page_id=1920

活動の詳細については、ボランティアステーションホームページを。

<http://step-tg.jp/volunteer/?p=1445>